

●**田んぼの生き物調べ 3日 10人参加** 大変いい天気で集合時間に10名の皆さんが集まってくれました。この日のリーダーの中栄さんは、爬虫類を最も得意とされています。作っていただいた観察メモ用紙には、爬虫類の絵が上手に書かれていました。自己紹介の後、スケジュールを説明して、近くの田んぼ道に入りました。康太君は生き物でも普賢寺川に入って魚とりをしていました。少し田んぼの周りを歩くとモンシロチョウが飛びました。カエルもたくさん見られました。少なくなってきたいるトノサマガエルにも出会いました。約 30 分間の観察のあと、昨年もたくさんの生き物がいたところへ移動しました。ここではカエルが驚いて移動する様子をみて感激しました。全部で 29 種の生き物を確認することができました。

●**天然記念物 イタセンパラが淀川水系で最後の生息地 柳や桑が大繁茂**

ここ 2 年間、現地の調査を行ってこなかったのが、5 年前に一斉に樹木の伐採を行い、かなりきれいになっていた河川敷が、すっかり元の鬱蒼とした樹林に戻っていました。里山の会は、樹木がきれいに伐採された時に、小枝の整理が残っているから拾い集めなければと呼びかけましたが行われずに、大きな出水で流され、流れ橋にかかってしまいました。その後 2 年連続して流れ橋が流出しています。さてそれはおいても、イタセンパラの生育していたワンドは、通路をたどっても、その位置がわかりにくくなっています。福井さんにその場所を確定していただき入口の部分だけの草刈りを行いました。ショウブが背丈ほどの高さに生い茂って、水面はほんの少し光を反射する程度になっています。

10 名が半日程度、草刈りと樹木伐採を行えば、かなり回復できると思われます。梅雨入りの季節ですが、ここで草刈りをしておかないと繁茂が一気にさらにひどくなり樹木伐採には、手が届きかなくなると思われます。天然記念物に指定されているイタセンパラが淀川水系で一番最後まで生育していた木津川で自然復帰できるよう、このワンドの復活を試みる動きが少しづつみられるようになってきました。また海産アユの遡上が見られるようになり、豊かな木津川が戻りつつあるようです。木津川への関心も高まりつつあると感じます。ご一緒にいい川づくりにご協力をお願いします。

●**稲垣環境課長（淀川河川事務所）と面談 竹門、山村 大聖牛 10 月 21・22 日設置で合意**

この四月に着任された淀川下線事務所の環境課長の稲垣氏は、若さあふれる新進気鋭の期待できる課長さんです。5 月 21 日の竹蛇籠での生き物調査にも出かけてくださって、現場を確認されました。

今回、古来の河川制御装置である大聖牛の設置を木津川で設置するという提案に賛同いただけそうなので、京都大学の竹門康弘准教授と山村が話し合うことができました。その結果、設置について 10 月の 21・22 日をめどに準備を始めましょうと一致しました。前回の竹蛇籠の製作設置では、事前準備をほとんど里山の会が受け持ちました。その中で最もきつい作業が真竹の 280 本の切り出しでした。すべて人力で切り出し運び出し割り付けと精製を行って座敷赤子の材料を準備しました。国交省木津川出張所は玉石 50 トンを現場に運び込んでくれました。今回も同様な作業量となると、とてもきついことになりますので、大きく改善しなければならぬことにも合意しました。これから準備が始まります。皆さんのご協力を以前にもましてよろしくお願いします。大聖牛は竹蛇籠 18 本の製作が必要になるのです。資材の組み立てと竹蛇籠の設置の二つの作業が組み合わせられて完成できるものです。

●**淀川発見講座 3 日と 4 日の大阪と京都会場 100 人の大盛況** 2017 年度の河川レンジャー育成を目標にした淀川発見講座が 3 日と 4 日の二日間、大阪会場と京都会場で開催され、100 人の受講生が参加されました。この後河川レンジャーを希望される皆さんに「養成講座」が 3 日間準備されています。水防や河川レンジャーとは何か。川のマナー、水に接して川の特性を知り、水難救助の現地講習会。そして河川レンジャーの役割などを学習します。その次に自らの希望する活動をプレゼンテーションで発表し審査を受けて合格された人がレンジャーに就任されることになります。なかなか厳しい関門ですが、川はご存知の通り危険と隣り合わせのところですので、基礎をしっかりと学ぶ場が設定されているのです。里山の会の活動にご参加いただければ、これらの課題はすいすいとパスされると思います。来年度はぜひ挑戦してみてください。応援します。

●**木津川希少植物生育地図製版業者に届けられる** 昨年からの木津川の希少植物の生育場所の確定を進めてき

ました。その記録をまとめて記帳した台帳が完成しました。木津川出張所がその資料をまとめてくれるということで、お願いしたしました。これが完成すると、これまでの成果をさらに書き加え、そして今後の調査観察記録を追加記入し、その地点での最新の記録が判明させることができることになります。しかしこれは門外不出の貴重な資料です。木津川出張所の思いもかけない贈り物となります。

●組織づくりで魚とり体験の充実と継続開催を目指す 里山の会結成から20年を数えました。初期から参加されていた皆さんはそれだけ年を重ねられています。体力もそれだけ弱くなり足腰もすこし衰えが見られています。このままでは立派に継続してきた各種取り組みも縮小せざるを得なくなります。20年前のころは木津川での魚とりなど全く考えられなかったのですが、河川レンジャーの誕生と里山の会の理解と協調が進み、木津川本川での魚とり体験が実施され、毎年400人以上の子どもたちが木津川に親しむ魚とりなどを体験できてきました。すごい取り組みです。今日、川に近づくな危険だと学校で強く指導されていますが、里山の会と河川レンジャーの奮闘で、安心して流れる水に接して、ふるさとの川・木津川を身近に感じていただいています。素晴らしい体験の場が提供できています。しかしそれも20年が経過すると年齢を重ね、徐々に無理となってきました。この次を引き受けてくださる皆さんの出現を心からお待ちしています。我と思わん方は、名乗り出ていただきたいのです。よろしくお願いします。“川がき”を育てるふるさとの川を身近にする取り組みにご協力をお願いいたします。

●ササユリを愛でる会 開花 つい最近までとても梅雨入りまでにササユリの開花はダメではないかと思っていました。4日前なんと里山農園で待望のササユリが一輪開花してくれました。昨年4輪一昨年は5輪を開花させたところに集中して観察し期待していましたが、その場所ではなく別の場所で開花してくれました。大雨の後、急に大きくなってくれたのではないかと思います。やっと一安心です。人の手を全く加えないで自然のままに育っているのです。まさに笹が生い茂る山裾の日陰にそっと立派に咲くササユリは里山農園が誇る宝物です。大切に大切にしています。ご覧になってください、きっと10日の「蛍の夕べと里山音楽会」まで咲き続けてくれることを祈っています。

●京都商工会から京の七夕の笹竹の見積もり提出依頼がありました 京の七夕の初回到京都商工会議所から、突然、竹の提供者としてお願いできないかとの申し入れがあり、夏の風物詩として、取り組まれるならと快く引き受けて、お水取りのたいまつに使われている真竹を切り出して提供してきました。京都錦市場のアーケードでの七夕の取り組みに使っていただいていた。理事長さんには格別に喜んでいただいたものです。そのほか商店街の夏祭りにも模擬店を出店することや柿取りに来ていただくなど、交流も深まりはじめてきました。しかし突然入札制度となって、里山の会としては受注ができなくなってしまいました。いろいろ商工会議所との折衝を重ねましたが、関係修復ができませんでした。事務局で検討しましたが、これまでの経過からお断りをしてはという意見と、とりあえず入札を行ってはと意見が分かれました。16日が期日なので、ダメ元として入札をやってみることにします。

●里山農園 20号地伐採の玉切り進む 伐採木の集積作業を10日午前中の作業として実施します。皆さんのご協力をお願いします。天気は曇りとのこと、午前10時に里山農園にご参集ください。約1時間の作業となります。柵の張り直しができれば大成果です。うよろしく願います。14時から蛍の準備がありますので、できるだけ軽作業として終了します。

●概要案できる 魚とり 子どもの水辺 1：親子で遊ぼう…木津川とその支川などで魚とり体験と水質検査を通じて故郷の川を事前を学ぶ。木津川読本「発見!!山城の歴史。木津川はどんな川」を学ぶ 2：京都府こどもの水辺…三川合流部に京都府下で初の川での学習施設が完成した。この場を活用し、淀川の水辺での体験と活動の発表を行い交流を深め合う。さらに京都府下の水環境への理解と水辺活動の活発化を目標にして開催する、と提案しました。

●ホテルの夕べと里山音楽会 10日(土) 少し時期が早いように感じますが、ササユリが咲きだしましたのでホテルの適期に入ったのではないかと推測します。今夜現地を調査してきます。こぞってご参加ください。ご来場になる皆様に歓迎しようと深田さんを中心に18・17号地及び中の道と6号地7号地の草が刈り取られて、足元の安心度が上がりました。また森島さんによる斜面の草刈でササユリの展望も開けました。残るのは枯れ木の丸太切りの集約で10日の午前中にやり切ることになりました。新聞社も案内記事を掲載してくれるようです。